清政

せいせい

70

巻頭言

虎の檻

神道政治連盟京都府本部
本部長　梶　道嗣

日々皆様方には新型コロナウイルス感染症のことで、公私にわたり対応に追われておられることと存じ上げる。しかし、長引くこの国難の今こそ、家族の絆と神社を中心とした地域社会の重要性を再構築する良い機会なのではなかろうか。また、近隣諸国とも手を携え、この難局を乗り切らなければならない時期だとも思うのだが、現実はそうでもなさそうである。

もう、五～六年前になるかもしれない。ボーイスカウトの世界ジャンボリーが日本で開催されることとなり、大会終了後のカリキュラムとして、海外から派遣されるスカウトの一部を奉務神社育成団で受け入れることとなった。丁度その頃、兼務社の社務所が空いていたこともあり、イタリア（男女十名）・韓国（男子四名）の高校生スカウトを各々別日程で受け入れることとした。十数年前までは少人数に割り振りし、スカウトの居る家庭でお預かりするというのが一般的であったが、昨今日本のスカウト人口の減少が要因か、ホームステイを受け入れてくれる家庭は少なく、今では比較的大人数の受け入れが可能な宗教施設、公共施設の利用がその多くを占めているようだ。

先ずはイタリアスカウトの受け入れから。女性の寝室を十二畳の二階に、男性の寝室とリビングを二十五畳の一階に設け、すべての部室には冷房を完備させ、出来る限りの環境を整えた。真夏の野外キャンプ後のことでもあり、体調管理を最優先に、それでも出来るだけ京都を楽しんで頂けるよう、緩やかな三日間のカリキュラムを組んだ。幸い彼らは英語が堪能であり、私たちの片言の英会話でも理解してくれるので言葉の問題はクリアされた。スタッフ一丸となり二十四時間体制で精一杯のお世話をした結果、最終日に彼らが発した言葉と態度から、「心底感謝している」という気持ちが私たちに伝わってきた。

今思うに、イタリアという国が特に親日国だという話を聞いたことはない。彼らから自然に湧き出たあの言葉と態度は、ある程度の国際感覚を有し、少しばかりの知性を持った人間なら、誰しも当たり前に出て

日本で行われた第 23 回世界ジャンボリー　公益財団法人ボーイスカウト日本連盟 HP より

くるものであったのかもしれない。

暫くして韓国スカウトがやってきた。彼らは兎に角、我々の言うことを聞かない。自分達の方が上だという意識が態度に現れる。ただ、心証を悪くし「食事を与えられず、クーラーも切られ、最悪本部に送り返されるのだけは避けたい」と思ったのかもしれないが、最低限のことだけは仕方なく従う。毎日「買物に連れていって欲しい」と強請(ねだ)られ、家族・友人のお土産なのか、店から商品が無くなる程の「こんにゃくゼリー」に、夜食用のスナック菓子などを大量に買い込んでいた。また、インターネットで情報を仕入れるのか、家族に連絡を取る為なのか、消灯後にフリーWi-Fiの電波が入る場所を求め、近くのバス停付近を徘徊していたことが記憶に残る。意思の疎通は、英語がそれほど堪能ではなかった為、携帯電話の翻訳アプリを使って我々に希望を伝えてきた。私たちも大切なことを伝える時にはこの方法を使ったが、あるスタッフがアプリを切ることを忘れ稼働状態にしていたところ、彼らの会話を携帯電話が瞬時に翻訳、我々のことだけではなく、日本人を誹謗中傷する内容が画面に表示された時には、流石にショックを隠しきれなかった。受け入れを中止し、本部に送り返そうかとまで思ったが、これをすれば間違いなく彼らはリーダーに折檻を受けるであろう。『虎の檻』に放り込むようなものである。これは個人の問題ではなく、日本を嫌う根底には徹底した自国での反日教育に原因があるのだ、と自分達に言い聞かせ、彼らを最後まで責めることはしなかった。

韓国の各科教科書は、国が作成するので一種類しか存在しない。そこに記述されていることが彼らの共通認識となるのだが、それらは事実をねじ曲げ、隠すだけでなく、幼稚な捏造文章も掲載されてしまうものとなっている。

小学校の社会の教科書に「姓名を日本式に変えなかった、という理由で家族が軍に捕まった。愛国奉仕隊に志願すれば父は釈放されると言われたので志願すると、そのままジャカルタに慰安婦として連れていかれた。」とある。しかし当時ジャカルタはオランダ支配下、日本人が慰安婦を連れて入れるはずがない。「姓名を日本式に変え

なかったという理由で捕まった」ともあるが、正確には「日本式にしても構わない」という日本政府が出した触れのことであり、姓名変更を日本が強制した事実はない。

また、中学校国語の教科書には「日本に国を奪われていた時代のこと、私たちの国の人々は、日本の巡査を虎よりも恐れ暮らしていた。夜になると村を歩き回る子供を捕まえ、『虎の檻』に閉じ込めてしまう、朝鮮の女性なら年齢に関係なく捕らえていく。」とある。当時、朝鮮の巡査は全て自国民で組織されていたので、仮にこれが本当に行われていたことであっても、日本人に依る蛮行であるはずがない。今や国際常識とされる自国に都合の悪い史実、韓国軍による保導連盟事件（最大一二〇万人が虐殺されたとされる虐殺事件）、ベトナム人に対する大量強姦事件（ライダイハン問題）には全く触れられていない。況してや、朝鮮の独立は日清戦争の講和条約（下関条約）で日本が清国から勝ち取ったこと、韓国最大のポハン製鉄所は日本の援助で出来たこと、平成二年まで日本から政府開発援助（ODA）を受けていたこと、平成九年の経済危機を日本に助けられたことなどは記述されるはずもない。

何処の国民も、自国の学校教育で受けた情報はすべて正しいと考える。韓国人が反日になるのは当然で、むしろそうならない方が不自然である。一部の韓国人は、今日自国を取り巻く様々な問題の一端には、間違った歴史認識があることを察しているようだが、国民の総意を以って、偏向した歴史教育を恥ずかしく感じ、間違いを正して行かない限り、どうしようもないことなのである。このままでは、日本はおろか世界のどの国とも真の友好関係は築けないであろう。

現時点で彼らと接する最善の方法は、「食事は与えず、クーラーを切る」。何故そうされるのかに気付いてもらうことではないか。ただ『虎の檻』に人を入れるようなことだけは出来ないのが日本人なのであろうか。

任期、あと一年、皆様の倍旧のご協力を仰ぎつつ、職務全うを誓う、今日この頃である。

今という時
Reflect the times

今、国民は憲法論議を求めている

神道政治連盟
総務会長　黒神直大

神道政治連盟京都府本部には、本年設立五十周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。今日まで、神道政治連盟の先陣に立って活動して来られた貴本部先輩諸兄のご尽力に対し、改めて深甚なる敬意と感謝を表します。

さて、昨年来世界を席巻するコロナウィルスは変異しながら感染を拡大し、わが国にも経験したことのない非常事態が続いています。戦後七十余年、他人任せの平和と経済的豊かさの享受による「ぬるま湯」の中で、危機感を忘れ備えを怠ってきた付けが、コロナ禍によって一気に露呈されたと感じざるを得ません。将に「ゆでガエルの法則」そのままに、非常事態に脆弱な国家になっていたことを国民が知る由となりました。

中でも、感染防止の頼みの綱とされるワクチン接種において、ワクチンは外国頼み、接種は自治体頼み、最後になって自衛隊頼み、接種率は発展途上国並みという現実には、辛抱強い日本国民と云えども危機感を覚えたのではないでしょうか。

世界の国々と比べて日本政府の対応が甘いとか遅いとか批判されていますが、これも政府の対応能力よりも、非常時の対応を定めた規定が無いことがそもそもの原因であると、多くの国民が気付き始めています。

先の産経新聞の世論調査によれば、「具体的な憲法論議を進めるべきと思うか」に、思う七二％／思わない一九％。「緊急事態条項を新設すべきか」に、すべき六八％／すべきでない二三％という結果が出ています。国民の多くは国民の命を守る憲法を求めており、憲法論議を望んでいるのです。

「災い転じて福となす」。コロナ禍によって多くの命を失い、経済的大打撃を受けていますが、こうした非常事態の経験で国民の意識が変化してきた今こそ、憲法論議を興す好機なのではないでしょうか。

国民の代表機関である国会は、「喉元過ぎれば熱さ忘れる」の諺にならぬよう、今後も起こり得る非常事態を想定して憲法論議を加速すべきです。コロナ禍に学んで国民を守る備えを憲法に加えること、それこそが国民の負託に応えるということなのではないでしょうか。と同時に我々も、国民の命を守ることの出来ない憲法は改正すべきであるとの国民運動を、今こそ拡大しなければならないのではないでしょうか。

振り返れば、千年の古都である京都には、政変、戦火、疫病、災害など数多くの非常事態を乗り越えてきた歴史があります。国家の安泰、国民の安寧を祈り続けてきた信仰が息衝いています。人々には悠久の時を経た文化と英知が継承されています。現在わが国が直面する国家的諸課題に対して、この歴史ある京都の地から斯界の力を結集し、これからも力強く活動に邁進して下さいますことを念願して止みません。

結びに、私事ながら神職の道を歩みはじめた京都の地は、多くの方々にお世話になったご恩と懐かしさの溢れる特別な場所です。この度、寄稿の機会を頂いた梶本部長様に深く感謝致しますと共に、京都府本部益々のご発展と皆様方一層のご活躍を心よりお祈りします。

（令和三年五月二十八日識）

京都府戦歿英霊追悼慰霊祭

とき：令和二年十一月十九日
場所：ウェスティン都ホテル京都

令和二年は、中国武漢を発生源とする新型コロナウイルス感染症、いわゆる「武漢肺炎」によって散々な年となった。人々は感染に怯え、あらゆる催しが中止または延期に追い込まれ、古都の人流が一気に止まってしまった。

当神政連京都府本部でも会員大会が中止されるなど、その影響は避けられないものであったが、先輩諸兄より連綿と受け継がれた慰霊行事だけは途切れさせたくないとの本部長の強い思いから、感染の第三波が警戒される中、感染対策を万全に行い、参列者を極力限られた人数に絞り、戦歿英霊追悼慰霊祭を斎行する運びとなった。尚、例年同日に催行している時局講演会は、滞留時間が長時間に亘るためやむなく中止とした。

慰霊祭は、参列者約六十名が見守る中、国歌斉唱、「海ゆかば」の静かな合唱から始まった。祭典は、斎主の室川副本部長を始め祭員を当本部役員が務め、祝詞奏上の後、神社庁山名麻衣録事による朝日舞が厳かに奉奏された。

慰霊祭は、厳粛かつ滞ることなく斎行され、引き続き式典が行われた。式典では、梶本部長の挨拶の後、京都府神社庁林秀俊副庁長、繁本護衆議院議員、岸本裕一京都府議会議員、京都市会神道議員連盟寺田一博会長よりそれぞれご挨拶を賜った。

これにて、式典を終えコロナ禍の中ではあったが、慰霊祭斎行という所期の目的を果たし、その後感染者も確認されず、役員一同安堵した次第である。

（堀川副幹事長）

靖國神社京都府関係祭神慰霊祭

副幹事長　小松　隆志

桜が見事に満開の三月二十九日、京都府関係祭神慰霊祭のため、靖國神社へ慰霊参拝をさせていただきました。

昨年はコロナ禍により、中止を余儀なくされた慰霊祭でしたが、本年は緊急事態宣言の合間を縫って、梶本部長のご英断で粛々とご斎行いただけたことは、大変喜ばしいことでした。とはいえ、やはりこのご時世、行事は靖國神社と明治神宮への参拝だけで、他の神社への参拝や研修などは自粛となりました。

また、今回は役員委員だけに限っての募集でしたが、それでも十九名もの参加があり、やはり慰霊祭へ寄せる皆様の思いの強さを実感させられました。

当日は、新幹線にて品川まで、その後は貸し切りバスにての移動で、靖國神社へ。慰霊祭の後、明治神宮に。正式参拝の後、域内のレストラン代々木にて昼食。明治神宮ミュージアムを見学、明治神宮御苑を散策し、バスにて品川駅へ。そこで解散、後は各自でという日程でした。

ただ、幸いなことに、明治神宮には、梶本部長と中嶋参事のご子息が奉職されておられることから、ミュージアムや御苑にて、丁寧なご案内と詳細なご説明を頂戴でき、有意義な時間を過ごすことができました。

ミュージアムでは、まだ開館二年余のため、参拝団でも初見の方もあり、貴重な宝物の展示を堪能させていただきました。御苑の散策では、名高い清正の井にて絶好のポイントを各々写真に収め、花菖蒲田では百五十種もの原種が栽培されている十六枚の広大な菖蒲田に圧倒されました。

宝物殿（中倉）では、折しも開催中の神宮の杜芸術祝祭の彫刻展を拝観させていただき、俄か芸術談義に花を咲かせました。

今回は、常にマスク着用で、食事の場でもアクリル板で隔てられ、懇親もままならないなど、不自由で制限の多い中での、例年とは異なる慰霊参拝団となりました。

改めて平常時の有難さを痛感するとともに、来年こそは大勢のご参加を得て斎行ができますよう、心底よりご祈念申しあげる春の一日となりました。

沖縄・京都の塔慰霊参拝団

副幹事長　南坊城　卓英

本年、我が国はもとより世界中において支那武漢市に端を発する新型コロナウイルスの猛威が吹き荒れており、未だ終息の気配が見えない。斯界においても数多の祭事・行事が中止や延期、縮小を余儀なくされており、創立五十周年の佳節を迎えた当本部でも同様である。そのような中でも「英霊に感謝と哀悼の誠を捧げる慰霊祭は絶やしてはならない」との梶本部長の固い意志を受け、役員等のみ総勢十二名の少数で、去る令和二年十二月九日から一泊二日の日程で沖縄県に向かった。

大阪国際（伊丹）空港で結団式を行い、機内に乗り込む。オフシーズンとは言えこの時勢、明らかに普段よりも乗客が疎ら、団体は当参拝団と修学旅行とみられる一行のみ。何とも言えない一抹の寂しさを覚えつゝ、予定通り温暖ながらも天候不良の那覇空港に降り立った。先ずは近辺のホテルで昼食を済ませる。行程中全てがそうであったが、ビュッフェスタイルの食事では感染拡大防止のため各人にビニール手袋が配られ、それを用いて料理を取る。新しい生活様式を実感しながら波上宮へ向かった。

波上宮正式参拝の後、大前にて周年事業の一つである沖縄県神社庁へ祭典用女子装束二式の寄贈式を行い、渡慶次沖縄県神社庁長より梶本部長へ感謝状が贈られた。

波上宮を後にし、当時は第七〇高地と呼ばれていた嘉数高台公園内に建つ京都の塔へ。今回初参加であった小生にとってこの地は初めての訪問であり、恥ずかしながら沖縄戦における序盤の最激戦地であり、第六十二師団独立混成旅団で約二千五百柱の京都府出身者が十六日間に亘る激戦の末、この嘉数の地で散華されたことを知らずにいた。波上宮の職員の方にお手伝い頂いて舗設された斎場に木霊する斎主 後藤副本部長の祭詞が、故郷を想う英霊の御霊を慰め鎮め給うであろうと、奉仕者参列者全員の所感であることは想像に難くない。祭儀終了後の梶本部長の挨拶では、このような状況でも何とか本慰霊祭を続けることができ感慨深いとの言葉にも、全員同感であっただろう。

尚、慰霊祭の最中に防衛大学生一行が研修でこの地を訪れていた。国防を担う士官の卵たちは、本慰霊祭をどのような気持ちで見て

朝日舞奉納

女子神職装束二式奉納に対し感謝状を賜る

いたのか。大きな期待と少しの不安を覚えてこの地を後にした。

二日目は正に慰霊巡拝の旅となった。沖縄戦終局の地である沖縄戦跡国定公園を訪れ、摩文仁の丘の頂上にそびえる第三十二軍司令官牛島満大将と参謀長 長勇中将を祀る「黎明之塔」をはじめ、「ひめゆりの塔」「梯梧之塔」「白梅之塔」を巡拝、最後に沖縄縣護國神社を自由参拝して全員無事に帰京した。

「白梅之塔」を訪れた際、丁度塔前でテレビの撮影と思われる現場に遭遇した。撮影を中断して貰い拝礼したところ、出演者の女性が「本日はようこそお参り下さいました」と、社頭でよく聞くような台詞でこちらに話しかけてこられた。話してみれば、「白梅之塔」に祀られている白梅学徒隊（四十六名中二十二名戦死。戦後、靖國神社へ合祀）の生き残りで結成されている白梅同窓会の中山きく会長だと言う。沖縄戦の語り部として現役で活動される御年九十一歳の中山さんによれば、慰霊祭を続けていく困難さを憂いておられたが「これからの慰霊と顕彰を担う若手の会が発足された。これで祖国へ殉じた同級生達に安心して会いにいける」との事であった。

現在我が国喫緊の難題である地方の過疎化、斯界の抱えている不活動神社対策にも思いを馳せる旅となった。

白梅同窓会の中山きく会長

白梅の塔

梯梧の塔

沖縄平和祈念堂

京都府議会神道議員連盟
京都市会神道議員連盟

会員のご紹介

京都府議会 片山誠治先生

神道政治連盟京都府本部の皆様におかれましては、平素から敬神愛国の情、地域の絆や家族の絆を守り育むためご尽力いただいていることに、心から敬意を表し、厚く御礼申し上げます。

古来、私の選挙区の南丹市及び船井郡には数多くの神社があります。これらの社にて思うのは、先人達のたゆまぬ努力によって、神域が美しく維持され、祭事が連綿と継承されてきたという事実です。我らの祖先は「まつり」に加わることによって、神々と「真釣り」合い、地域の方々との絆を深めてきました。今日、「まつり」とは、我々が生かされて生きる社会的存在たることを自覚する一つの重要な契機だと思います。

近年、人口減少や少子高齢化等によって、祭礼を担う若者の減少が社会課題となっています。住民同士の交流を促し、地域の絆を深める祭礼が、住み慣れた地域において将来に渡って斎行されていくよう、移住の促進や地域の担い手として活動する関係人口の増加に力を注いで参ります。

菅原道真公の御歌に、

心だに誠の道にかなひなばいのらずとても神やまもらむ

とあります。私自身、これまで「誠心と情熱」を旨として議員活動を続けてきました。「誠の道にかなう」とは終生の課題ですが、常に神を心に念じつつ己を省みて、府民が明るく笑って暮らせる社会を実現するため、今後も日々精進して参ります。

京都市会 西村義直先生

「共に祈ろう 明日の笑顔のために」

神道政治連盟京都府本部が、熱き想いのもと昭和四十四年に結成されて以来、一貫して日本の歴史と文化伝統に基づく国柄を踏まえた、誇りの持てる新しい自主憲法の制定を目指し、国家主権と領土を巡る問題への対応、英霊顕彰運動、教育正常化運動や、更には、時局に応じた様々な施策・国民運動を行ない、世界から尊敬される道義国家、世界に貢献できる国家の確立など多岐に亘る、崇高な尊い取組みを通して私たちの生活や暮らしに深く根付いた活動を日々展開されています事に、敬意と感謝を申し上げます。

毎年のように発生する自然災害や、世界に及ぶ新型コロナ感染症などに伴う混沌とした厳しい社会経済情勢におきましても、神道政治連盟の「神道の精神を国政に、日本の心を政策に」との活動方針が、幅広い施策の道標になっていることと思います。日々、多くの方々の喜びや苦しみと向き合う中でも研鑽を積み上げられていますことに、重ねて敬意を表します。

結びに、梶本部長を先頭に神道政治連盟京都府本部ならびに会員皆様の、今後益々のご発展を心から祈念申し上げます。

あしあと

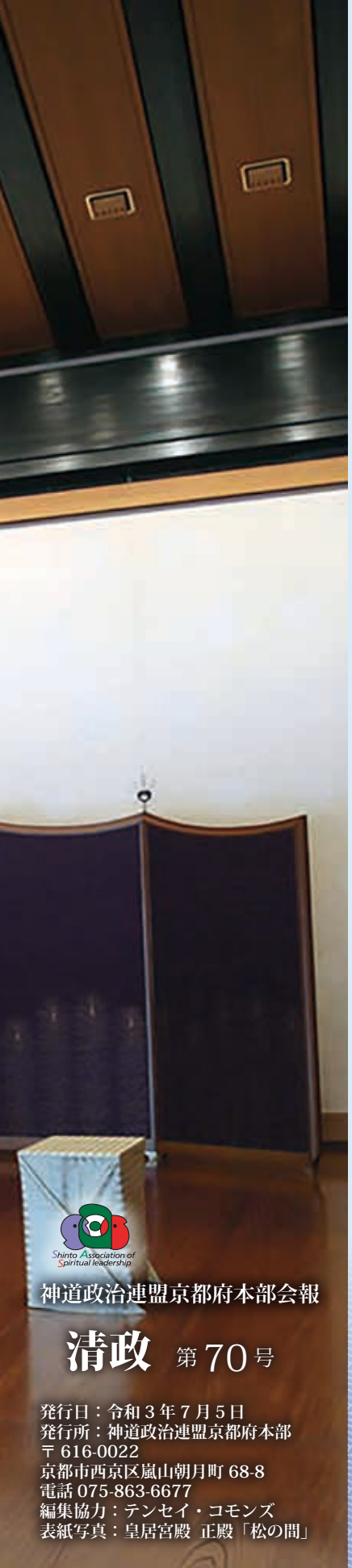
事務局からの活動報告
【令和２年 11 月から３年７月まで】

令和２年

11 月 19 日	創立 50 周年京都府戦没英霊追悼慰霊祭 60 名参列〈於 ウェスティン都ホテル〉
〃	清政 69 号発行
〃	役員会 24 名〈於 平安神宮記念殿ホール〉
11 月 25 日	宇治市長選 自民党京都府第六選挙区担当者会議 花房参与出席〈於 活力宇治の会事務所〉
11 月 27 日	神政連和歌山県本部結成 50 周年記念式典【新型コロナウイルス対策にて中止】
12 月 2 日	神社庁教化委員会並び関係団体代表者懇話会 梶本部長出席〈於 京都府神社会館〉
〃	美しい日本の憲法をつくる京都府民の会企画委員会 梶本部長出席〈於 京都府神社会館〉
12 月 8 日	神道政治連盟大阪府本部設立 50 周年記念式典【新型コロナウイルス対策にて延期】
12 月 11 日	沖縄京都の塔慰霊参拝団 本部長以下 11 名〈於 沖縄県 嘉数高台〉
～ 12 日	併せて、創立 50 周年記念事業 女子装束 2 式 沖縄県神社庁へ寄贈
12 月 12 日	神政連兵庫県本部 50 周年記念式典 梶本部長出席〈於 シーサイドホテル舞子ビラ神戸〉

令和３年

1 月 28 日	京都府神社庁新年神職総会関係団体助成金交付式 梶本部長出席〈於 京都府神社会館〉
2 月 11 日	紀元祭並び建国記念の日奉祝京都式典 梶本部長以下関係者出席〈於 京都府神社会館神殿〉
2 月 18 日	京都府神社庁祈年祭 梶本部長参列〈於 京都府神社会館神殿〉
〃	伊勢神宮崇敬会京都府本部理事会評議員会 梶本部長出席〈於 京都府神社会館〉
2 月 23 日	天長祭並び天長節奉祝京都式典 梶本部長以下関係者出席〈於 京都府神社会館神殿〉
3 月 13 日	京都 2 区 憲法改正研修会 林顧問・梶本部長以下 20 名出席〈於 賀茂御祖神社公文所〉
3 月 21 日	佐古一洌大人命一年祭並びに偲ぶ会 梶本部長参列〈於 ホテルグランヴィア京都〉
3 月 24 日	令和 2 年度京都府神社総代会総会 梶本部長出席〈於 ホテルグランヴィア京都〉
3 月 29 日	靖國神社慰霊参拝団 19 名出席〈於 靖國神社・明治神宮〉
4 月 8 日	神道政治連盟中央本部役員会 梶本部長出席〈於 神社本庁〉
4 月 13 日	志公会と語る夕べ 関係者 3 名出席〈於 ホテルニューオータニ〉
4 月 17 日	京都府神社庁例祭 梶本部長参列〈於 京都府神社会館神殿〉
〃	神社庁並び総代会関係者合同会議 梶本部長出席〈於 京都府神社会館〉
〃	美しい日本の憲法をつくる京都府民の会企画委員会 梶本部長出席〈於 京都府神社会館〉
4 月 28 日	役員会 13 名出席〈於 京都府神社会館〉
5 月 3 日	第 23 回公開憲法フォーラム YouTube 放映
5 月 19 日	神道政治連盟近畿地区協議会【新型コロナウイルス対策にて中止】
6 月 2 日	美しい日本の憲法をつくる京都府民の会企画委員会 梶本部長出席〈於 京都府神社会館〉
〃	創立 50 周年実行委員会 15 名出席〈於 京都府神社会館〉
6 月 9 日	神道政治連盟国会議員懇談会総会【新型コロナウイルス対策にて延期】
6 月 10 日	神道政治連盟役員会【新型コロナウイルス対策にて書面決議会議】 梶本部長出席〈於 神社本庁〉
〃	神道政治連盟中央委員会【新型コロナウイルス対策にて常任委員会として開催】 梶本部長出席〈於 神社本庁〉
〃	神道政治連盟本部長事務局長連絡会【新型コロナウイルス対策にて延期】
6 月 12 日	綱紀委員会並び財務委員会合同会議〈於 京都國學院〉
〃	役員会〈於 京都國學院〉
6 月 29 日	伊勢神宮崇敬会京都府本部理事会評議員会〈於 京都府神社会館〉
〃	代議員会〈於 京都府神社会館〉
7 月 5 日	創立 50 周年記念式典〈於 リーガロイヤルホテル京都〉
〃	創立 50 周年記念講演会 講師 衆議院議員 安倍晋三 先生
〃	清政 70 号発行



神道政治連盟京都府本部会報

清政 第70号

発行日：令和３年７月５日
発行所：神道政治連盟京都府本部
〒616-0022
京都市西京区嵐山朝月町 68-8
電話 075-863-6677
編集協力：テンセイ・コモンズ
表紙写真：皇居宮殿 正殿「松の間」

時事一滴

副幹事長 山田健二

新型コロナウィルス感染拡大は未だ収まりを見せず、多くの方が何とか前に進もうと苦渋の決断をしながら懸命に知恵を搾り日々奮闘しています。

「コロナ禍」と言いますが「禍」とは予期せぬ災という意味である一方、工夫や努力で人々が防ぐことが出来た事柄ともいわれます。これは何かに気づいて欲しいとの神様の想いではと感じるところです。物が溢れ便利さに慣れ、普通と思っていた日常が崩れ、日々の何気ない生活そのものに於いても大きな変化を余儀なくされました。しかしながら、これは全てを見直すきっかけともなっています。先般ある方に「こうした中でも新しい命が生まれてくるのは神様が人間を見捨てていないからだ。今この時に生まれる命は宝であり感謝でしかない」というお話をお伺いしました。新しく生まれてきた子供達には、今の状が日常として映るでしょう。方や、目に見えないものに不安を感じ、知らず知らずの内に心が折れそうになり右往左往してしまうのも頷けます。

斯界にあっても、二年に亘り氏子を始め人の繋がりが持てず、伝統行事の継承も危ぶまれながらも祭を縮小せざるを得ない等、出口が見えない状況が続いています。だからこそ、心の安寧・拠所としての神社の役割は益々重要となってきます。祭祀の厳修は元より、日々祈り、誰かの笑顔の為に今を生き奮闘しようではありませんか。気づいた時が始まりと思い、手探りながら夫々が出来る事から信念を持ち行動し、共に一日も早い終息を祈念致しましょう。